

みえ現場 de 県議会「子ども子育て支援」の実施概要

- 1 日時・場所 平成25年10月27日(日) 14:00~16:00
三重県立みえこどもの城 1階研修室

2 テーマ 「子ども子育て支援」

＜テーマの選定理由＞

我が国では、急速に少子化が進行し、子育てを取り巻く環境も大きく変化する中で、社会全体で子育てしやすい環境を整備することが求められている。

そこで、子育て家庭が置かれている現状や抱えている課題、行政も含めた社会における支援策などについて、子育て中の方等から直接意見を聴くことで、「子ども子育て支援」の推進へとつなげていく議論を展開する。

3 参加者

＜県民＞ 12人

内訳：子育て中の方（小学校低学年までの子どもがいる方・公募）7人
子ども子育て支援に関わるNPO等の方 5人

＜県議会＞ 14人 ○印は広聴広報会議委員

山本勝議長、○前田剛志副議長（広聴広報会議座長）、○下野幸助議員、
○小島智子議員、○栗野仁博議員、○石田成生議員、○大久保孝栄議員、
○中西勇議員、○村林聡議員、○今井智広議員、○後藤健一議員、
藤田宜三議員（戦略企画雇用経済常任委員会 委員長）、
森野真治議員（環境生活農林水産常任委員会 委員長）、
濱井初男議員（健康福祉病院常任委員会 副委員長）

＜傍聴者＞ 8人

4 プログラム

- (1) 開会 挨拶（山本勝議長）
- (2) 趣旨説明 前田剛志副議長（広聴広報会議座長）
- (3) 自己紹介
- (4) 「子ども子育て支援」に関する県議会及び県の取り組み報告
（戦略企画雇用経済常任委員長、環境生活農林水産常任委員長、健康福祉病院常任委員会副委員長）
- (5) 意見交換
- (6) まとめ 前田剛志副議長
- (7) 閉会 挨拶（山本勝議長）

5 意見交換での主な意見

意見交換① 0歳～保育所・幼稚園に入るまでの時期

- ・ 虐待などが報道されると、ひどい親がいるなあと思っていたが、実際に子育てをするようになって、特別な人が起こすのではなくて、皆同じ所にいると感じた。子育ては大変、しんどいのは仕方ないが、0、1歳の最初のところで、子どもと深くかかわることで、子どもがかわいくなっていく、そういう滑り出しがうまくできればいいと思って、このような店をしている。
- ・ 虐待は追い詰められたら誰にでも起こりうる問題である。私自身、どこで助けてもらったらいいいのかわからなかった。そこで、ヘルプしているところがいっぱいあるんだよということを皆さんにお知らせしながら、ともにいろんな形で次の世代を考えていけるものを作っていかれたらと思う。
- ・ 4人目が産まれたときに初めて夫に育児休暇をとってもらった。夫の職場で男性が1年間育児休業を取ったことは初めてだったかもしれない。子育てに参加して、夫のイクメンパワーがすごく変わったと感じる。経済的には苦しいので、今は夫は働きに行っているが、主人がいてくれるなら5人目も産んでいいかなと思っている。やはり男性が育児に協力してくれるのは本当に少子化対策になると思う。
- ・ 今度4人目が産まれるので育児休暇を取る予定である。職場では、4人目だから仕方ないなという反応だった。男性が育児休暇をとるときに一番心配するのは、出世だと思うが、自分の場合、やはり気になるのが給料が通常より少なくなることであり、そこで短い育児休暇は1か月だけとることにした。
- ・ 父親が育児休業をとって子どもと初めて関わってこんなに可愛いんだと気づいてくれたという話を聞いて嬉しい。母親も、大変すぎて子どもを可愛いと思える余裕がないということがいっぱいあると思うので、スタートの時点で子どもって可愛いな、子育てって嬉しいなという思いを持ってもらえたら良いなと思う。
- ・ お母さんが一番不安定になるのは0歳からの一番最初の、子どもがまだ自分の言うことを聞かない、自分でものを訴えることができない、という時期である。子どもからのサインをどう受け止めて良いのかなと悩んでいる時期が一番辛い。お母さんが安定するためにはお父さんの役割はすごく大きい。おじいちゃん、おばあちゃんももちろんだが、そこをさらに地域がサポートしていただくということが大事である。
- ・ 男性の育児参加が重要だと思うが、男性の意識を変えていくために県がどんな取り組みをしているのか教えてほしい。
 - 育児に関わる男性の全国大会、ファザーリング全国フォーラムを三重県に誘致しようとしており、そういう中で情報発信をしながら取り組んでいく。また、積極的に取り組んでいる企業を表彰して企業の中で情報交換をしていたら、より良くしていこうという、少し息の長い活動の中で意識改革を常に図っていこうとしている。(議員から)
 - 男性の育児休暇取得について、なかなか発信する機会もないし、日本人はそういうことをあまり言おうとしないが、どんどん人に伝えて周りの理解や協力を広げていくことが大事だと思う。(議員から)

→ 男性が育児に「参加」するのではなく「参画」することがこの社会を少しずつ変えていくことになると思う。(議員から)

- ・ 上の子どもがいると、幼稚園の保育士さんなどに相談できるが、一人目の時は何も分からず、どうしようと思っていたら、自分の地区では、公民館行事といって月1回保育士さんによる読み聞かせ等の行事があり、地域でお母さんを応援してくれた。そういう地域との関わり合いを持たせてくれるような子育て支援が地区にあるのは、すごく恵まれていると思った。
- ・ 日本は、妊娠したら産婦人科でそこそこの指導があったり、地域では母子保健センター等の活動があったりするが、その後、保育園・幼稚園へ行くまではそこそこでぶつ切れになっている。保育園・幼稚園に入るまでは地域の広場を利用される方も多いが、そこへ行くことすら分からない人もいるので、そういう情報発信も大事である。途切れなく地域で誰かがサポートしている環境ができるといいが、今は行政がぶつ切れになっているところを民間の方の力を借りながらサポートしていただいている。そこをぜひ制度というか県として何かサポートしていただきたい。やはり時期時期で頼る場所が違うというところが大きな課題であると思う。

意見交換② 保育所及び幼稚園の時期

- ・ 自分の娘が通っている幼稚園が、15人未満のため閉園されると聞いた。地元で通える幼稚園がなくなるのは困る。働いているお母さんを守るために保育園を増やしていこうという感じだが、幼稚園は幼稚園で地域に密着して活動しており、良い経験をさせてもらっている。少人数の幼稚園でも閉園にせず、是非守ってほしい。
- ・ 保育園から幼稚園に替りたいと思っても、経済的なこともあって終日働かなくてはならない夫婦では幼稚園に行けないということがあがあるが、今後の幼保一元化の方向性について教えてほしい。
 - 現在、「認定こども園」というのが幼稚園と保育園を一体化で運営できるようになっているが、文部科学省と厚生労働省のそれぞれの所管になっていて面倒な手続きが要る。平成27年度からは消費税の財源を使って、国で新しく「子ども子育て支援新制度」ができる。県では平成26年度に計画を作り、市町もそれぞれの需要に応じた計画を作っていくという状況である。(執行部から)
- ・ 共働きなので3人の子どもを保育園に預けているが、入所申し込みの際、市役所の人から3人とも同じ所に入れるかどうかはわからないと言われ不安になった。また、子どもが3人いると、連続で熱を出したりして、看護で何日も仕事を休むことはなかなか大変である。病児保育などは聞いたことがあるがまだ利用したことがない。保育の施設や仕組みが充実したり、気軽に利用することができれば保育に関する不安がなくなって、育児がしやすいと思う。
- ・ 兼業主婦をしているが、育児と家事の両立がうまくできない。他のお母さんは上手くやっているようで自信がなくなってしまう。
- ・ 子どもを保育園に入れて仕事にいつているが、平日の行事に参加する機会もなく、ママ友ができないことを不安に思っている。

意見交換③ 小学校低学年の時期

- ・ 田舎は環境は良いが、近所と距離があり、遊びに行くにも親などが送り迎えしなくてはならない。学童もあるが、そこしかいけなかったり、習い事をするにはバス等を使わなければならなかったりと、山間部ならではの悩みがある。
- ・ 知り合いが、自分の子どもが通っている学校に学童保育がないので自ら立ち上げをしようとしているが、すごく大変だと言っている。そういうことへの支援も必要だと思う。
- ・ 津市の学童保育の運営は保護者会がしているが、子どもの卒業に伴って保護者が入れ替わる非常に不安定な組織なので、もう少し公的なサポートがあれば良いと思う。
- ・ 学童は保護者会の運営なので、役員になってしまうと本当に大変である。ただ働きたくて子どもを預けただけなのに、何で個人の親や指導員にもものすごい負担がかかってくるのかなあと思う。
- ・ 学童保育の運営費に対する補助金は、人数によって額が全然違うと聞いたが、地域的に子どもが少なくて学童があまりない所もたくさんあると思うので、その部分はもう少し改善できないか。
 - この件については、人数とかの条件を取り払うよう国に対して要望をしているところである。(議員から)
- ・ 人数に応じて学童に補助金が出るが、毎年その人数を確保できるわけではなく、次の年にはがくっと減ってしまう場合もあり、毎年綱渡りをしているのが現状である。
- ・ 自分たちが子どものときは地域に子どもの自主集団があったが、今は学童だけである。親が仕事があるから学童へというだけでなく、学童を子どもが育つ場、人間関係を作っていく場として考えていただき、そういう場として学童をぜひ応援してほしい。
- ・ 私立の学童はプログラムもしっかりしていてその中で教育的なこともしているが、公立は預かるだけで、子どもへのサポートも個人の資質任せである。リーダーやきちんとしたカリキュラムがあるわけでもなく、そのところは今の補助金ではできない。また、学童では、子どものいない昼間の職員の処遇が問題になる。デンマークでは、その間は、学校の補助員をやっている、身分も教育もきちんとしているが、日本もそれぐらいのことを考えないとまずいと思う。

その他

- ・ 校区内で不審者の情報がよくある。安心して遊べる公園等が欲しい。
 - 以前、自分のいる地域でも不審者情報は多かった。その地域では自治会関係者が青色回転灯でパトロールをしてくれて、不審者やつきまといが目に見えて減った。このように、既に取り組んでいるところを参考にして、地域の力をぜひ活用してほしい。(議員から)
 - 住民協議会というのがたくさんできていて、その中に安心・安全部会とかがある。そういうところに出向いて意見を伝えるということがすごく大事だと思う。(議員から)

- ・ NPOは隙間の所を埋めていく団体である。学校へお迎えに行き学童に送るといふこともやっている。しかし、これからはその活動のための会員確保が課題である。また、サポートを継続的に使われる方はお金がかかるので、使いたいのに使えない、という人もいる。NPOとしてもそのあたりを行政に働きかけながら活動している。
- ・ こどもの城には多様な年齢層の子どもたちとその家族に来ていただくが、その方たちとここで地域の方々が触れ合っていたら、そして手を取り合って地域社会の子育て支援を試みようという機運が上手く作れればと思う。
- ・ 中小企業の社長さんに、いろいろな子育ての会や子育てのイベントなど支援者の集まる所に来てもらって、子ども達やご家族と関わってもらおうという取り組みをしている。社長さんたちの中には、地域のおじいさんのような優しい気持ちになってくれた人がいた。企業が子育てを理解してくれれば家族が幸せになり、それが企業のパワーになって戻ってくる。そういう社会づくりが大事で、必ず皆さんの前にもそういう温かい気持ちを持っている方たちがたくさんいるだろうと思う。そういう方たちの存在に気が付いて、温かい気持ちになってもらおうと子どもを育てる時の力が湧いてくると思う。
- ・ 個人でものすごく努力をされているが、個人の努力には限界があり、だからこそ行政の支援が必要となる。ワークライフバランスのようなものを施策にしながら意識改革を進めてほしい。とにかく、子どもを産んで育てやすい環境を作っていないといけないと思う。
- ・ 子どもに関わる様々な人材の処遇や資質向上のためのサポートをもう一つ大きいところから県としてぜひ後押ししてほしい。

→ 経済的な問題については、いろいろな形での補助があると思うので、これはこれでしっかりと考えていきたいと思う。(議員から)

- ・ 子育てで困ったときは、お母さん友達に聞いたり、ネットで調べたりしている。今はスマートフォンもあり、すぐ調べられるので便利である。
- ・ 病院のマタニティービクスに参加して情報をもったりしている。おばあちゃん世代とは子育ての方法が変わっているので、病院からの情報を第一にと教えてもらった。リアルな話を聞くのは、本当に歳の近い友達と、あとはネットですごく調べている。
- ・ ママ友と情報交換をしているが、もっと月齢の近い、子どもを同じ時期に出産した親同志で情報を共有できるようなサークルなどがあればいいと思う。
 - 実際にやってみないとわからない子育てで困ったことについて、ネットも使えるが、やはりママ友や近くのサークル的な支えは必要かなと思う。(議員から)
- ・ 子どもが夜中に熱を出し、じんましんまで出てきたのでネットで調べたが、病院へ電話をした方がよいと言われ、24時間受け付けのところへ電話をしたが、その時間では見てくれる病院がなく、救急車を呼べば搬送されるといわれたためらった。なので、もう少し夜中の病院を充実させてほしい。

6 参加者アンケートによる意見

【会議の感想】

- ・ 自分が知らない事も教えて頂き、自分の地域の制度をもっと利用したいと思いました。
- ・ 学童保育の拡充、イクメンの理解UP等、県としての課題を現場から頂き、大変勉強になりました。
- ・ 子育て、子育て支援に携わる方たちが集い、緩やかではありますが、繋がってゆく場に参加できて、嬉しく思いました。
- ・ 普段お話しをきいて頂けない方に意見を述べられたことがすごく意義があると思う。
- ・ 細かい話にも議員の方々が話しをよく聞いて下さり自分の話しをたくさんしてしまっただけですがとても良い機会となりました。ありがとうございます。普段話したくても、伝えたくても話せないことをたくさん言えたり、聞かせて頂いたり、アドバイスを頂けたことを感謝いたします。
- ・ 子育てをする為に必要な情報をどこかで見る所があると便利になるのではと思いました。

(HPで地域、内容別で分けたもの)

- 公園
- 保育園・幼稚園入園に必要な連絡先
- イベント
- 夜間病院 等

【みえ現場 de 県議会のあり方】

- ・ 次回からはっきりしたテーマがあれば、周りの友達の意見などもまとめられるのでより良い議会になると思います。時間が限られるので、もったいを絞った方が良いと思います。
- ・ 継続して、主要なテーマを練り上げ、みえ現場 de 県議会の開催をお願いします。
- ・ このような場が単発で終わるのではなく、これを機につながりを維持できるようになれば良いと思います。
- ・ 私立の小学校や、幼稚園に参加希望者をもっとつづければもっと色々な方がこの会議があることを広められるのかなと思いました。
- ・ 意見交換の時間が足りなかったです。